

ちよつとしい話

～ 見えぬ虫 ～

21年7月1日

泣き虫、弱虫、^{かん}癩の虫等、昔からの見えぬ虫が現在でも^{かつやく}活躍致しております。これらの虫は、なんとなく理解出来る虫となっていますが、いままでに考えた事も無い、そんな虫に^{そうぐう}遭遇したら、^{いかが}如何がなさいますか？例えば、病を例に挙げますと病は健康を嫌う目に見えぬ虫が活躍し、心身共に食い荒らす訳ですが、それも本人が知らない間に進行し、本人が知った時には手の打ち様がないという状態に^{おちい}陥っている事が多いのです。^{しんしん}心神喪失などは^{まさ}当に^{たましい}魂が魂を好んで食う虫に食われてしまった、と言えるでしょう。病を引き起こす虫にも好き嫌いがあって当然でしょう。心臓の好きな虫は心臓に入り込み、胃腸の好きな虫は胃腸に入り込み、細胞の好きな虫は細胞を食い散らし、食べ終わると、我々の肉体と共に消滅するのです。^{こわ}怖いですね。しかし現代の医療も進歩した結果、人間ドッグ、或いは集団検診に依って^よ巣食い始めた虫さんを見つける場合もあります。早期発見ならば少しの虫を殺し、少しは我々を生命の危険から守る事が出来ます。**しかしながら神代の昔から病が絶えた事はありません。**結果、目に見えない虫の^{かつやく}活躍を褒めたほうが良いのかもしれない。我々の生命と共に共存する色々な虫達に、痛みだけは味わうことの無い様に御願ひするしか無い様に思えるのです。なぜならば先程申し上げました様に、我々の寿命と虫達の寿命が同じであるからです。今や狂牛病、鯉ヘルペス、鳥、豚インフルが人間に^{たた}挑戦状を叩き付け、^{いかむかう}戦闘態勢に入っています。人間が如何に^{おもしろい}迎え撃つか面白いです。医学も日進月歩向上していますが目に見えない^{いつおそ}何時襲って来るのか分からない虫達に^{ぼうぎょ}前もって防衛する事は出来ません。虫が侵入して初めてその虫の研究をするのです。^{きょくろん}極論ですが研究の成果が出る前に新種の虫に侵入された人々は^{かな}悲しきかな^{ちりょう}治療する方法も無く、目に見えない虫と共に一生を終わる事になりましょう。故に、前号で話しました。福德の第一が健康である事の意味が良くお分かりだと思ひます。**人間の一生は長く遠いと思へねど、^{ただ}唯、今日一日の積み重ねなり、悔いの無い一日を。**当山の七月は「お盆の大施餓鬼法要」が^{つと}勤まります。ご先祖様が^{にがむし}苦虫を^か噛みつぶした様な状態に成らないように、先祖の供養をして下さい。御願ひ致します。

善入院油掛地藏尊